

1.開催日時 令和4年7月25日

開会：午後1時30分 閉会：午後2時48分

2.開催場所 東庄町役場 1階 多目的ホール

3.議 題

(1) 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換

①地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み

②その他

4.出席者

東庄町長 岩田利雄

教育委員会

教育長 石橋宏克

教育長職務代理者 向後元道

委員 林 英仲

委員 岩井利幸

委員 秋元悦子

事務局 教育課長 宇ノ澤修、教育課生涯学習担当課長 郡伸明

事務局 総務課長 堀江弘之、総務課長補佐 林 昌樹

5.傍聴者 4名

6.議事の経過 別紙のとおり

令和4年度第1回東庄町総合教育会議 会議録

日 時 令和4年7月25日（月）午後1時30分から

会 場 東庄町役場 多目的ホール

（午後 1時30分 開会）

○堀江総務課長 ただいまから令和4年度第1回東庄町総合教育会議を開催いたします。

次第に沿って進めさせていただきます。

町長挨拶。町長お願いいたします。

○岩田町長 皆さん、こんにちは。大変暑い中、出席を賜りまして誠にありがとうございます。委員各位には、令和4年度第1回総合教育会議ということでご参集をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、総合教育会議の協議、そして調整事項の一つであります教育の条件整備など重点的に講ずべき施策につきましての意見交換をお願いするものでございます。

さて、近年、子供たちや地域社会の環境が大きく変化をいたしまして、学校に求められる役割も大きく変わってきております。

今の社会に必要な知識を教えることはもちろんでありますけれども、将来を見据えた「確かな学力」そして「豊かな心」「健やかな体」を育む教育体制と環境の整備がもちろん必要でございます。

また、地域社会との連携を強めながら、子供たちの健全育成を図るための事業の推進が、非常に重要なものであると考えております。

皆様方には、町教育に関する課題を共有し、今後の施策方針等について有意義なご意見を賜りたく、お願い申し上げる次第でございます。よろしくお願いを申し上げまして挨拶とさせていただきます。本日はどうぞお願いします。

○堀江総務課長 ありがとうございました。

続きまして、教育長挨拶。教育長お願いいたします。

○石橋教育長 今年度第1回の総合教育会議に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。とうございます。

さて、東庄町は、50年前に中学校が一つになりました。地域全体で学校を支えていただき、今の姿がございます。また、こじゅりんこども園は、令和元年度に開園、そして、東庄小学校が令和2年度に統合を果たし、今年度で3年目を迎えます。特に小学校においては、開校したにもかかわらず、コロナ禍の影響で様々な行事が中止、縮小に追い込まれ、保護者会だけでなく地域の方々の協力を得る機会が非常に少なくなりました。各地域との関係が希薄になってきてしまっているという現状がございます。学校・家庭・地域の連携がスムーズに流れていないという状況を否定することはできません。

また、新聞、ニュース等で盛んに言われています、スポーツ庁、文化庁から出された「中学校部活動の地域移行」という問題があります。東庄町においても中学校の部活動に関しましては、全国の状況と同様に、中学校の教諭が行っている状況です。私自身も、教員時代に水泳、バスケットボール、ソフトテニス、野球と様々な部活動の顧問を経験しました。経験のある野球以外は、専門誌を読んだり、見真似で指導したりしました。専門的な知識や技能を持たない教員に対して、生徒や保護者等のその見る目も厳しく、要望も多かった気がします。中には、部活動が重荷になっているという教諭もいました。中学校部活動の地域移行に対しては、異論はありませんが、その受皿となる各種スポーツ団体の体制が整っていません。スポーツ庁、文化庁は今後3年を目途に「中学校部活動の地域移行」を進めるプランを出しました。7月21日に、千葉県教育委員会から「今後の地域移行に関するプラン」についての説明がありました。今後、そのプランを読み解きながら、東庄町としての方向性を示さなくてはならないと考えているところです。

子供たちの健全の育成を図るには、学校の力だけではどうすることもできません。地域や家庭との連携がとても重要であるということは言うまでもあ

りません。また、コロナ禍の中にある状況ではございますが、学校・家庭・地域の連携を図りながら、様々な課題を解決していくことが重要であると思います。

本日のテーマは「教育の条件整備など重点的に講ずべき施策」、特に「地域全体で未来を担う子供たちの育成」です。東庄町教育委員会としては、国の制度である「学校運営協議会」、いわゆるコミュニティー・スクールと、「地域学校協働活動」を次年度から取り入れ、学校・家庭・地域と連携を図っていきたいと考えているところです。

本日は、皆様の忌憚のないご意見を頂戴できればありがたいと思います。

○堀江総務課長 ありがとうございます。それでは、議事に入りたいと思います。議事進行は、町長にお願いいたします。

○岩田町長 それでは、早速議題に入らせていただきます。議題の一つであります「教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換」を議題とさせていただきます。事務局より説明をお願いします。

○事務局（林課長補佐） それでは、総合教育会議の協議、調整事項の一つであります、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について意見交換をお願いします。特に、今回の会議では、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みについてご協議いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○岩田町長 ただいま事務局から説明がございました。ただいま事務局から説明がございました。

子供たちがこの東庄町で生まれて、また地域の中で育ち、やがて地域社会の一員として東庄町を作っていく、「ふるさとが人を育み、人がふるさとをつくる」これこそが私の理想とする地域社会であると考えております。本町は小学校が一つになった現在、地域の学校への関心が薄れ始めているという状況も一面には見られるようではありますが、「地域全体で未来を担う子供た

ちの成長を支える新たな仕組み」の構築が必要であると思います。

先ほど、教育長から「国の制度の活用」とありましたが、いかがいたしましょう。

○石橋教育長 では、挨拶の中で申し上げさせていただきました、「国の制度」について説明をさせていただきます。教育委員会としては、「学校・家庭・地域の連携をどのように図っていくか」ということが大きな課題です。そこで、来年度から国の制度である学校運営協議会の制度（コミュニティー・スクール）と地域学校協働活動という制度を活用しようと考えます。

では、スクリーンを見ながら説明させていただきます。

まず、はじめに「学校運営協議会の制度」についてです。この制度は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5」規定により定められた「協議会」を指します。

まず、教育委員会は、この学校運営協議会を設置します。設置された学校を「コミュニティー・スクール」と呼びます。

次に、委員を任命します。委員は、10名～15名ぐらいです。そして、任命された委員が集まり、学校運営について協議をします。東庄町では、「東庄町立小中学校 学校運営協議会」を設置しようと考えているところです。本来は、こじゅりんこども園を入れたいところですが、まずは小中学校で試行し、後々、こじゅりんこども園も組み入れた「学校運営協議会」としたいと考えます。

この学校運営協議会の役割は3つあります。資料1の青枠右側に記載しています。

一つ目が、「校長が示す学校の基本方針を承認する」という役割です。これが最も大きな役割です。

二つ目は、「学校の運営に関する事項について、教育委員会又は校長に対して意見を述べることができる」ということです。この協議の中で、「東庄の子供たちをどう育てていこうか」、「東庄町の教育環境の整備を充実させたい」などについて熟議をします。

三つめは、「教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べることができ

る」ということです。

これらの熟議や協議を通して、様々な学校の問題を地域と家庭が共有し、同じベクトルで子供たちの教育を進めていくという国の制度です。

東庄町においては、地域や家庭との協力をいただきながら学校教育を進めてきていますが、それを体系的に制度化していくことと共有化が重要であると思います。

まず、この「学校運営協議会」を設置し、そして、次に説明させていただく「地域学校協働活動」とリンクするとよりスムーズな「学校・家庭・地域の連携」が図れると思います。

では続いて、「地域学校協働活動」について説明します。資料2をご覧ください。学校・家庭・地域という三角の中に「学校運営協議会」を示しました。東庄町には、教育振興会、NPO、警察、スポーツ団体、福祉団体、保護者、民生委員、青少年相談員、文化協会、町PTA、東庄町の行政や、まちづくりの団体など、色々な団体があります。今までは、それぞれの各団体が直接、学校と交渉をし、教頭を窓口としながら、各種団体と連携をした取組を行ってきました。

私も去年まで東庄中学校で、たくさんの団体と連携を図りながら行事や教育活動を進めてまいりました。例えば、学習支援ということで、文化団体の方々にご協力をいただき「日本文化体験」という教育活動を行いました。また、キャリア教育では、コロナ禍でできなくなった「職場体験」を別の形で行いました。いくつかの団体の代表を招き、「それぞれの人生」を語ってもらうという企画を行いました。他にも、ふるさと教育の一つとして、利根川河川財団とコラボをして、町の鳥コジュリンや利根が岩のワンド・魚道などについての勉強会を行ったりもしました。

また、中学校の部活動指導については、卓球、陸上、テニスで部活動の顧問を地域の方々の協力を得て行っています。見守り隊としまして、青色パトロールや、地域の方々、特におじいちゃん、おばあちゃんによる見守りをしてもらっているところです。

このように各団体と学校が独自に調整を行い、地域や家庭と連携した活動を行っていますが、その調整や実施は容易なものではありません。

そこで、「東庄町立小中学校地域学校協働本部」を作り、各団体との交渉や学校との仲介をする調整役の人材（コーディネーター）を置き、連携を図る仕組みを考えています。また、様々な団体の代表が、一堂に会し、「東庄の子供たち」について話し合いをする場、ここでは「地域とともに歩む学校づくり委員会」としましたが、この場を設け、問題を共有と問題解決に向けた話し合いを行い、ベクトルを合わせたいと思います。

そして、「東庄町立小中学校 学校運営協議会」と「東庄町立小中学校地域学校協働本部」を連動させ、東庄町の子供たちのために、学校・家庭・地域が連携した教育がすすめられると素晴らしいと考えます。

これらの制度を取り入れた、全国の教育委員会や学校の感想をインターネットで検索してみましたところ、①教育についての情報と議論が町民全体に広がった、②様々な教育課題について議論ができるので、迅速で効率的な対応が可能となった、③様々な関係者が、本音で話し合いをすることができた、④課題について共通理解できた、⑤子供の教育に対する当事者意識と教育に関する関心が高まり町民の意識改革にもつながった、⑥地域のつながりがより強固になったなどの感想がありました。

この制度の活用や体制を整えるに当たっては、教育委員会の学校教育係だけではできません。当然、生涯学習係や福祉との連携も必要です。様々な業務を見直して、新たな組織を再構築、整理をしていくことが、今後、必要であると思います。

このように、国の制度（学校運営協議会・地域学校協働活動）を活用しながら学校・家庭・地域の連携を図り「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み」を整えていきたいと思います。以上でございます。

○岩田町長 今、教育長から説明がありました。子供たちを育てるのは学校だけではありません。「地域とともに歩む学校づくり」は各団体が一丸となって、子供たちを応援していく考え方だと私は思っています。ご意見ございましたらお願いします。

○向後職務代理 向後です。

今、教育長が説明したことですが、文部科学省では以前からコミュニティー・スクールの推進がうたわれています。大きい町では、PTAの参加もほとんどないし、学校との関わりが全くないということですが、東庄町には、PTAがあったり、色々な関係で学校に行く行事が多かったりしますので、実際そのような問題は、大きな都市部でのことだと考えていました。「東庄町は、連携ができていないじゃないか」、「祭りなどにみんな参加したり、地域との交流がいっぱいあったりし、東庄町ではこの体制が整っているんじゃないか」と考えていました。教育長が話されたように、今までは個々の団体がそれぞれの考えで学校との関わっていたことがよくわかりました。

現在、幼稚園が統合され一つになり、小学校も5校から1校統合し、新しい形でスタートしようという時に、コロナ禍により行事ができないなど、学校と地域との連携がほとんど取れないような現状があります。

一方で、先生方の働き方改革という観点も含めた、部活動の地域移行（外部団体への委託等）、また、文化系統の部活も2025年までにスポーツと同じ体制を取るようになります。

教育長が学校の新たな形を想定しながらスタートを切ろうとしていることは、非常に良いことだと思いました。ぜひこれを進めていってほしいと思います。また、国も進めているということは、予算措置もある程度あると思いますが、それ以上に町も十分なバックアップ体制を作ってください、「学校運営協議会」、「地域学校協働活動」が効率・効果的に機能していくように支援をしていただきたいと思います。

○岩田町長 一言ずつご意見伺いましょうか。では、続いて秋元委員、お願いします。

○秋元委員 秋元です。よろしくお願いします。

今、教育長のお話を聞いて、具体的に団体名とか出てきました。「学校運営協議会」や「地域とともに歩む学校づくり委員会」の委員等をどのように選抜し、運営していくかが問題だと思います。神代地区はとにかく過疎ですの



で、委員の選出はすごく苦しい面があります。しかしながら、この方向性はすごく良い考えだと思いますので、ぜひ進めていてもらいたいと思います。以上です。

○岩田町長 岩井委員。よろしくお願いします。

○岩井委員 岩井です。この学校運営協議会（コミュニティー・スクール）というのは、とても良い方向に進んでいくと思いますけど、教育長に一つ質問があります。この先何十年を見据えて考えているかについてお聞きしたいと思います。

○石橋教育長 将来的には、延々と続いていくことがベストなことだと思っております。やはり、どこかで途切れてしまうということがないように、やっつけていかなければいけないと思っています。10年後、20年後の姿を描きながら、様々な目標をもって、進めることを考えなければいけないと思っております。

ここで、先ほど説明を忘れてしまったところ付け加えさせていただきます。「地域学校協働活動」については、まず学校のニーズということを考える必要があります。学校のニーズにより、教育活動の中で「地域と連携した活動」を行いたいため、関連する団体をお願いするということがあります。学校には学習指導要領が示されており、それにあつた「教育課程」を校長が作成することとなっています。そして、年間指導計画を作成しながら進めています。1年間の計画だけではなく、中長期的な計画を立てながら学校の経営方針を見直したり、改変したりしていく必要があります。

○岩井委員 かなり先までこの計画によってボランティアを育てるとしたら、私の意見ですが、できれば児童会長、中学校の生徒会長、高校生などにも「学校運営協議会」や「地域とともに歩む学校づくり委員会」などに参加させていただきたいと思います。リモートでもいいですし、子供たちに参加してもらえると、「自分たちで考えて、東庄町を良くしていきたい」という形

が生まれてくると思います。そうすると、「学校運営協議会（コミュニティー・スクール）」や「地域とともに歩む学校づくり委員会」はかなり機能してくると思います。

○石橋教育長 今の意見は、本当に大切なことです。学校運営協議会の委員は準公務員的な扱いですので会議自体には参加できませんが、「地域とともに歩む学校づくり委員会」には小学生の児童会の代表、中学生の生徒会の代表、高校生のボランティアの代表も参加をしていただき、彼らの意見を聞きたいと思います。このような機会を作ることが大切であると感じましたので、ぜひ実現させていきたいと思います。以上です。

○林委員 教育委員の林です。よろしくお願いします。

まず、今、教育長からお話がありましたけども、今回の総合教育会議が行われるという形の中で、私の中で、今施策として何が重点的に考えなければいけないのかなということを考えたときに、やっぱり町長が先ほどおっしゃったように、地域との連携は、もうこれかなり喫緊の課題にはなりつつあると思います。小学校が統合したことで、施設面ではかなり充実しました。先進的なものを取り入れていただいて、かなり先鋭的な教育ができる環境を整えていただいております。反面、懸念するところは、「地域との連携が薄れるのではないか」というところです。コロナ禍が重なったということによって、顕著に表れてきており、これが課題として考えられると思いました。

もう一つは、他の会議の時にも少し感じたことですけども、これからは、やっぱり保育との連携が必要です。そういった中で、教育長からお話があったように、この学校運営協議会というのは、まさにそれを進める一つの大きな方法であるというのを感じました。ぜひ進めていただきたいと思います。

同時にやはりこういったものは、今10年先を見据えてという話がありましたけども、もうかなり具体的に行動を起こす時期、まず、それを具体化していけないと、いけない時期になっていると思います。

今日も長期欠席者の会議を民生委員さんの方と行いましたが、民生委員さんもいろいろ子供たちに声かけをし、協力をしてくださっています。そうい

った方たちの意見や行動一部吸い上げ、町全体としての教育活動に組み入れるということが必要な段階に入っていると思います。いち早く具体化・組織化をし、進めるべき段階であると感じています。

石橋教育長から、岩井委員からの質問の中で「学校のニーズがまずあって」ということのお話があったのですが、私は、ある意味、コミュニケーションというのは、双方向だと思っているので、「地域のニーズもあってというのもいい」と思っています。地域のニーズを逆に学校も吸い上げていただくという努力も必要だと思います。それによって結果的に一時的に先生方の負担が増えるような感じになるかもしれないですけども、結果として、それが地域とのコミュニケーションになったり、そういった子供たちの声かけがあったりして、先生方も最終的に働き方改革も含めて、負担を減らせると思います。そういった意味で、やはりもう具体化・組織化をしていくような段階にぜひ進めていただきたいと思います。以上です。

○石橋教育長 いろいろありがとうございます。教育課程ということで学校のニーズということについて話をさせていただきました。この教育課程にあった地域連携であれば組み入れることは可能です。例えば、東庄中校長の時の話です。赴任した年、「コジュリンマラソン大会」の応募の時、中学生の参加があまりなかった状況だったので、先生方に呼びかけ、「町一つの中学校なんだから、中学生も協力してやろうよ」ということになり、ほぼすべての部活動で生徒の参加がありました。その年の参加者は多数であったと思います。また、コロナ禍になる前に、私は「コジュリンマラソン大会」を学校行事に組み入れられないかを検討し、コジュリンマラソン大会実行委員会にお話をさせていただき許可を得ました。しかしながら、コロナ禍となり、大会自体の中止、人数の制限等で学校行事としてのマラソン大会は実現していませんが、このような地域のニーズに応えることも重要なことであると考えます。これは、一つの例ですけれども、学校のニーズ、地域のニーズを入れながら「地域とともに歩む学校づくり委員会」の中での話し合いを進めることが、今後大切になってくると感じます。

○岩田町長 はい、どうぞ。

○秋元委員 先ほど、岩井委員からお話がありましたけど、生徒の参加は大切かと思えます。以前、町長さんと中学生が話し合いをする機会がありました。私の子供も中学3年生の時に参加させていただきました。大変勉強になったと思えます。町長さんともっと近くなる場面をつくったり、行政の在り方などについて知ったりする場面を作っていたらいいと思えました。18歳から選挙権が今度与えられるのですから、もっと主権者教育について考えたり、自覚したりする機会を作る必要があると思えます。

○岩田町長 今、いろんな方々からご意見がございました。かつては、小学校5校と、中学校が4校、この町にありました。各小中学校もそれぞれ特色を持っていた学校がいま一つになりました。しかし、一緒になって何かをしようとするというのは、やはり最初が難しいものです。そのなかで、一番の応援団は地域の人たちです。

ですから、教育の面で地域性ということが、これからすごく出てくるのではないかと思います。「東庄町に育った子供たちは、町民みんなに支援をされて、応援を受けている。」という応援の中で育ってきた子供たちを育てたいですね。それには、みんなで思案をして、みんなで協力して、子供たちの教育に関心を持ってもらいたいと思うわけです。関心を持ってもらうことがまず大事だろうと思えます。

運動会一つとってみても、今まで東庄中学校は、非常に努力してきたわけです。その地域や町全体の年配の高齢者のお年寄りを呼んで種目を作って、その運動会の中に何回かその人たちが出場できるように、また、一般の人たちも出られるように、そういうような仕組みを作ってきました。「いろいろな人のために何かを行う」ということが東庄町の特色かなと私は思っています。

神代には神代の良さがあった、東城には東城の良さがあった。今まで自分たちのすむ身近な地域の中で地域の子供を作ってきました。地域と学校がうまく回っていたと感じます。各地域では、見知った子供たちに対して、注意

をすることもあったし、ほめてあげることもあった。注意をする時は、自分の子供を叱るようなつもりで叱ったかもしれない、でも、それは、地域を大事にする人たち、子供たちを大事にする気持ちの表れだったと思います。今、無関心な大人が多い時代ですから、そういうことに関心持っていただくための体制づくりが必要だろうと思います。

とにかく、東庄町で育つ子供たちを良い意味で、良い子供たちを育みたいというのは、先ほど来、教育長のお考えだと思います。それには、地域の色々な人たちが、関心を持っていただく。バックアップをして、協力体制を持たないとそこまでは行かない。ですから、それには、いつでもそういうための協力体制を構築するということが重要であると思います。

これは、私の私見でありますから委員の方から、またご意見を伺いたいなと思います。よろしく願いいたします。

○向後職務代理 向後です。町長のお話しは、全くそのとおりです。今の話し合いの中で林委員のから、地域からの提案で学校に活動を云々という話がありました。それも非常に大切なことで、良いことです。しかしながら、地域からたくさんの要望があると、「面倒くさいな」と思うような校長もいないとは限りません。学校経営をされる校長先生方も学校運営協議会（コミュニティー・スクール）の理解をし、臨んでいただきたい。また、様々な研修を通じて校長先生の理解を深めていただきたい。

○岩田町長 では、教育長よろしく願いします。

○石橋教育長 この学校・家庭・地域連携については、十数年前に教育基本法に明示されました。また、一昨年度改定された学習指導要領の中では、「社会に開かれた教育課程の実現」という言葉が出ています。校長は学校で行っている教育課程を地域に示さなければならないことになっています。その一つの方法が、先ほどのお話をした学校運営協議会（コミュニティー・スクール）であると考えます。学校においては、是非、学校・家庭・地域の連携が進めてもらいと思っているところです。

○秋元委員 林委員の話の中で、保育に関する問題あったと思います。0歳～小学校就学までの時期の教育についても整備をしていただきたいと感じています。また、保育とこども園との連携も進めていただきたいと思います。また、特別支援を要する幼児の早期発見が大切です。3歳児検診などを利用して支援ができるかというのではないかと思います。福祉課と子育て支援体制を共有し、保・園・小・中と統一性がとれた体制を整備していただきたいと思っています。以上です。

○岩田町長 今、教育委員会と福祉、そのエリアがあって、活動していますが、それが子供の教育の中で壁になってはいけないと思います。ですから、その連携をきちんと取れるような体制、子供を育てという考え方、生まれてからもう成人するまでは、町がそれなりの連携の中で育てるという考え方が大切であると思います。そういうような取組の形、スムーズに事が進むような形、そういうものをやはり今後の課題として、努力しながら連携を取っていくようにということで進めていきます。

○石橋教育長 議長よろしいですか。保・園・小・中の連携はとても大切なことです。また、教育の原点は家庭教育にあると思います。教育委員会や学校は親に向けて様々な形で家庭教育支援を行っています。本年度、教育委員会と福祉が連携して、福祉では「相談業務こじゅりんく」という教育相談リーフレットを、教育委員会では、「すこやか子育てプラン」という0歳～6歳までの大まかな目安をまとめた冊子をそれぞれ作成し、3歳児の就学検診時に配付しました。親の目線に立った資料となっていますので後日皆様にもお渡しします。また、今後も連携を大切にしながら家庭教育支援を進めてまいります。

○岩田町長 よろしいですか。

○岩井委員 岩井です。その「こじゅりんくん」というすごくいい企画だと思います。やはり町民の我々意識とか、役割意識とかというのがすごく地域社

会に必要だと思えます。いろいろな機関と連携してスクラムを組んで子供たちを守るといふ連携が必要であると思えます。また、地域に社会資本が豊富にあれば子育てといふのは、いろいろサポートできて、とても親子の関係はよくなると思えます。現在は社会の変化が大きく進み、親だけが子供の責任を負うような形になってしまっています。それを回避するためにも家庭のプライバシーや人権に配慮しながら、子供を家庭だけではなく、それを支える社会的ネットワークを作っていきたいと思えます。

○石橋教育長 本当にそのとおりだと思えます。学校と地域が関わっていきながら、その中で方向性を見出し、ネットワークを作っていくことが大切です。是非、ネットワークづくりを進めたいと思えます。

○林委員 保育について、ちょっと誤解があるといけないのでお話をしておきます。私は、保育園とこども園を連携してほしいという意味ではありません。放課後児童クラブ、いわゆる学童、あれは、健康福祉が行っています。一方、放課後こども教室、これは、教育委員会（生涯学習）やられています。今の段階では別のものですが、保育と教育のより良い方法の連携が必要ではないかということをおし上げました。

健康福祉課の放課後児童クラブと教育委員会の放課後こども教室については、場所であったり、内容だったり連携を図ることでより良い活動ができると思えます。非効率な部分、同じような施策など連携・協働が必要であると感じています。

また、今後、中学校部活動の地域移行の問題があります。また、国でも「こども家庭庁」の創設があります。町の組織に関しても子育てに関するもの、あるいは育成に関するものは一つにまとめた方が効率的かもしれないという意味でお話をさせていただきます。

別のお話をさせていただきます。先日、橘地区の社会福祉協議会の会議に参加させていただきました。各地区に小学校があったころは、グラウンドゴルフを、各小学校で行っていました。先生方になるべく負担をかけないように、社会福祉協議会が主催となり、子供たちとのふれあいを目的に行ってい

ました。「老人の方々も若返る」、「日々の活力が生まれてくる」ということで活動をさせてもらいたいという意見がありました。そういった方たちの意見を吸い上げるという意味でも、先ほど教育長からご提案があった、「地域学校協働本部」で吸い上げていただけるとよいのではないかと思います。そういったところを具体的に一つ一つ問題解決をしていったり、テーマを何か決めて進めていったりすることで軌道に乗ってくるのではないかと思います。是非、組織とネットワークの構築をしていただければありがたいです。以上です。

○教育長 ありがとうございます。一つ目は、学童と放課後こども教室、厚生労働省と文科省、大きなところでは、制度と予算の違いです。東庄では、学童と、放課後こども教室の場所が非常に近いという利点があります。東庄小の敷地内に学童があり、そしてこの公民館で放課後こども教室が行われています。この放課後こども教室には、学童の子も参加できるというシステムになっています。今後は、それが機能しているかということを検証していく必要があると感じます。

二つ目です。地域のニーズを吸い上げるとなると、地域学校協働本部の中で、取り扱いをすることが最善策であると思います。コーディネーターを中心に進められるとスムーズにいくと感じました。

○岩田町長 今、皆様方からいろんなご意見を伺いました。過去に、町の教育を町全体で考えていこうということで、視察を行ってきました。コロナ禍によりここ数年行っていませんが、学校関係者・PTAの関係者・議会の方たち・振興会の方が集まり、研修や視察を行ってきました。

様々な考えを共有するということは、お互いに理解をし合うということです。「地域とともに歩む学校づくり委員会」とは、目的は一つ、「東庄の子どもたちの未来」のために、学校を取り巻く様々な関係者が一堂に会し、研修、視察、話し合いを通して意見を伺い、共有することではないかと思います。町民の関心は、小学校・中学校にあります。良い意味での教育を、全町民で行うことが肝心です。様々な組織、団体がお互いを理解し合わないと、



組織はうまく回りません。教育長が先ほど話をした「地域とともに歩む学校づくり委員会」のような組織があれば、様々な考え方を共有することができると思います。

○石橋教育長 今、町長が話された通りだと思います。この「地域とともに歩む学校づくり委員会」という組織をうまく活用することで、東庄の子供たちの教育を一貫して行うことができると思います。まずは、「東庄の子供たちをどう育てたいのか」ということをみんなで話し合うということが重要です。そうした話し合いを通して、共通理解が生まれ、各種団体の方も、「こういうような子供たちを育てよう」という、具体的なイメージを持って教育にあたることができると思います。

○岩田町長 長時間にわたりまして、皆さん方のご意見を伺ってまいりました。「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み」ということで有意義なご意見をいただきました。町といたしましては、できる限り協力してまいりたいと思っています。町全体で子供たちを育むという姿勢を持ち、様々な活動の中で知恵を出し合いながら、みんなが手を取りつなぎながら育むという考え方で、より良い社会人になるための応援団として地域を巻き込んでいきたいと思っています。

委員の皆様には、様々な考え方を私や教育長に言っていただきたいと思います。皆様方のご意見を大事にしながら「東庄町の子供たち」の教育を進めたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

ほかに何かご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。

○秋元委員 小学校の特別支援学級のクラスが結構あります。小学校の先生方も努力していただいていると思いますが、普通学級にもどれるよう、良き指導をお願いいたします。中学校になって登校拒否になったり、18歳くらいになったら、職業につけずひきこもりになったりする子もいるので、小中学校の指導はとても大切であると私は思います。

また、保育園だと3歳児健診の時に、特別な支援が必要と思える幼児を早

期発見し、ロザリオやわかばなどで見てもらう方法があります。また、保育園などでは、特別支援に詳しい先生を招いてその指導の方法について毎月のように研修を行っています。小学校においても職員研修を充実させていただきたいと思います。町に在住の先生もおられるので必要であれば声をかけていただければ紹介することができます。

特別な支援を要する子供を早期発見し、早期指導することで、様々な障害を改善することができます。また、繰り返しになりますが、特別支援を要する児童が普通学級に戻れるような様々な指導をお願いします。それには、見極めができる教師、担任であってほしいので、様々な研修を行っていただきたいと思います。特別な支援を要する幼児・児童が増加しているのは、「子育てが悪い」からではありません。脳科学上、子供の脳に異常があるわけですから、それを親御さんにも分かるように指導をしていただきたいと思います。将来、自立し働けるよう、また、ひきこもりにならないようにするためにも、保護者への指導が大切です。

さらに、東庄町は児童養護施設があります。町ではここで暮らす児童生徒も受け入れているわけですので、特別支援学級というクラスだけを作って「そこに入れておけばいい」という考え方をしてはいけないと思います。児童施設の子どもたちと町の子どもたちとの共存という教育が重要ではないかと思います。東庄町のまちづくりにも影響することなので、その辺を加味していただきたいと思います。

また、不登校児童生徒の割合も気になります。家庭で、わがままをすべて許してしまっただけではいけないと思います。極端な言い方をすると「ひきこもり」が増える原因にもなります。保幼小中の時期に、その発達段階に応じた家庭教育支援が重要であると思います。

○石橋教育長 特別支援教育については、小学校入学前の早い段階での発見と支援が必要であると思います。また、町にある児童養護施設からからもたくさんの方の特別支援を要する児童生徒が通学しています。特別支援教育を充実させるためには教員の指導力が重要なカギとなります。教員の指導力を上げるためには実践と研修です。小中学校でも特別支援に関する研修を行っている

と思いますが、やはり、若い先生方が多いという現状があります。若い教員が採用される状況は今後も続いていきますので、町としても特別支援に関する教員研修を進める必要があります。今年度は、8月26日に特別支援に関する教員研修を計画しているところです。

- 岩田町長 有意義なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。町といたしましても、できる限り皆様方に意に沿うように努力してまいりたいと、このように考えていますので、よろしく願いを申し上げます。
- それでは、次の2番目のその他でございますけれども、何かございましたら、お願いいたします。

- 林委員 前回の総合会議でもお話をさせていただきましたが、小学校を統合して、各小学校にいろいろな文化財があったと思います。それ以外も含めてなんですけど、町の重要な文化財を保護していく体制を整えていただきたいと思います。町の文化財を管理・保護・報告等をする町の専門職の配置をお願いします。貴重な資料でもありますし、また、今であればいろいろ先輩方にヒアリングをする機会もあります。「これは、いつ、こういったものだよ」というものがあるので、今の機会を逃すといけないと思いました。僭越ですけども、文化財を保護したり、管理したり、まとめたりする担当者のご採用を検討していただけるとありがたいと思います。以上です。

- 岩田町長 今のいろいろご意見をいただきました。今、たまたま学校が統廃合しまして、空いている学校・教室がございます。今は、一時的にそこに置かせていただいておりますが、大切な文化財について、説明も加えたり、いろいろなことを調べ示したりすることは大切です。また、文化財は貴重な品物として後世に残すことも行政の務めです。今後検討させていただきます。ありがとうございました。ほかにご意見等ございませんか。

(なし)

それでは、長時間にわたりまして、いろいろご意見を賜り、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、議事を閉じさせていただきます。そして、皆様からいただきましたご意見等につきましては、誠心誠意きちんと努力をいたしまして、今後の施策に反映させてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

○堀江総務課長 ありがとうございました。それでは、次第の5番のその他でございすが、何かございすが。特にないですか。

(なし)

○堀江総務課長 分かりました。よろしいでしょうか。それでは、これをもちまして、令和4年度第1回東庄町総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆様、お疲れさまでした。

(午後 2時48分 閉会)